

母国語の通じる医者／本音の会話をしたい／日本人と交流を

「母国語の通じる医者を探して」といった医療関係の相談や日常生活への疑問、さらには、本音で会話をしたい。在日外国人のこうした要望に電話一本でこたえたり、日本人と交流するきっかけを提供するホットラインが次々に生まれている。在日外国人が地域に密着して生活していくための、水先案内人、として、好評だ。



ひっきりなしにかかってくる電話に対応する清水さん(左)
—東京・世田谷のAMDA国際医療情報センター

電話回線が結ぶ 在日外国人と地域

在日外国人に医療情報を無料提供しているのは、昨年四月にスタートしたAMDA国際医療情報センター(東京・世田谷)。医師、看護婦など百四十人で作る民間団体「アジア医師連絡協議会」が運営しており、アジア、欧米人を中心に、月平均七十件もの電話にホランティアが対応している。「部下のアメリカ人が建築現場で鎖骨を折り、病院で治療したが、母国の治療とは違い不安。自分もアメリカ人で、医者も症状や治療法を聞きたいが英語が通じない」など、母国語が通じる医師を探す電話が全体の約七割を占める。

アメリカ人のボランティア、清水ルイスさんは、「私自身、十年ほど前、夫の立ち会い出席を希望し、アメリカ人医師を探し

ました。電話一本で言葉が通じる医者や、文化や習慣を理解してくれる病院の情報が見られることは画期的です」と話す。

「カーナ人の患者は不法就労で治療費を払えない。個人病院なので困っている」といった日本人医師からの電話や、「タイ人を雇ったので明日から通訳に来てくれ」といった企業からのSOSもある。

今や、在日外国人の問題は日本人の問題。そこで、お互いをもっと理解しよう

情報提供型や交流型など ダイヤルQ使ったものも

と二十一カ国四十八人の医師、学生・研究者、弁護士、主婦などで、面接して英語能力、パスポート等を確認した上で登録する。回線利用の日本人も学生、会社員、主婦などさまざま。留学先でのマナーや習慣をたずねたり、英会話の上達にも役かっているようだ。

会員のユーゴスラビア人の医大研究生「リッチ・ドマユコさん」は、「たまに携帯電話にかけてきた相手が医者だったため話が弾み、「エイズの話をはじめ、家族や恋人の話もします」と話している。

「AMDA国際医療情報センター」は減ってきましたが、何も言わずに途中で切ってしまう人が多い。気が合わない場合でも、一言「がんばらなさい」とかから切ってほしいですね。」

まさに、日本人のマナーが問われる場にもなっているようだ。

法務省によると、全国の外国人登録者数は、百四十二万二千四百四十四人(平成三年六月現在)。このほか十万人以上の不法就労者がいると推定されている。

◆「AMDA国際医療情報センター」 英語(月) 3469(日・祝日除く14時～午前零時)。直接、会員宅に通じる。六秒十円。問合わせは03・5479・4978。

◆「ダイヤル・サービスタ」 03・3700642
43。または、03・37067574。
◆「ワールド・デュエツ」という事業も始まった。

元OJの田村美和さん(ご石柳(ハシベ)かずみさん)が目を付けたのは、ダイヤルQ。回線を借り、昨年五月、外国人と日本人が英語で交流する「ワールド・デュエツ」をスタートさせた。

会員は現在、アメリカ、イタリヤ、インド、中国など切ってしまう勘違い電話は減ってきましたが、何も言わずに途中で切ってしまう人が多い。気が合わない場合でも、一言「がんばらなさい」とかから切ってほしいですね。」

主婦のスペイン人、ペロニカ・ウシオダさん(は育児、教育の話をし、日本の管理教育は反対といった論議を戦わせたという。田村さんは「男性が出る」と切ってしまう勘違い電話は減ってきましたが、何も言わずに途中で切ってしまう人が多い。気が合わない場合でも、一言「がんばらなさい」とかから切ってほしいですね。」

◆「ジャパン・ホットライン」 英語03・35860110。月・金の10時～16時。